

シナリオ3：市民・事業者の自己責任に基づくリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル型

《キーワード》 生活様式劇的変革、発生抑制・再使用徹底、ごみ処理費減少、ごみ有料化、ごみ処理費直接負担

- 《社会イメージ》
- ごみ処理費の負担を税金としてではなく排出者へ課すことで、生ごみなどの地域循環を図り、耐久財はできるだけ長期間使うといった、ごみを極力出さない生活様式への変革を半ば強制的に促します。
 - どうしても発生してしまう資源化可能なものや有害ごみ等についても、排出者責任、拡大生産者責任（EPR）の徹底による民間回収・リサイクルを原則とし、行政では受け取りません。
 - 行政は市民・事業者の取組支援や情報提供など、ごみを減らすための仕組み作りに力を入れます（行政はこの役割に特化）。
 - 民間による回収・リサイクルを実現するための費用は、直接あるいは製品価格に上乗せされた形で市民・事業者が負担します。

➡ リサイクルは自己責任として市民・事業者が実施します。なお残ったごみの処理についても行政から民間事業へ移行します。

言わば 市民・事業者の自己責任に基づくリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル型

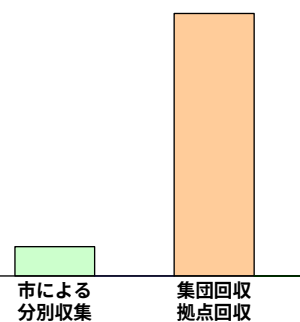
市民の皆さんの取り組みは？

- 使い捨て商品は店ではほとんど売っておらず、売っていたとしても値段がとても高くなっています。
- 使い捨てるより、修理して使う方が得になります。
- 飲料はリターナブル容器でしか買うことが出来ず、必ずお店に返却にいきます。

家庭での分別は？

- びんも色ごとに分けるほか、古紙やトレイ、乾電池など約20品目程度に分別します。
- 容器や生ごみは市の分別収集に出します。そのほか古紙や古着、乾電池やリターナブルびんなど10品目以上は、集団回収に出すか、それぞれのお店に持っていきます。

ごみの分別数



事業者の皆さんの取り組みは？

- 古紙利用率の高いコピー用紙を購入し、できるだけ使用量を減らしたり、食堂であれば食べ残しの少ない料理の提供を工夫するなど、積極的にごみや環境を考えた事業活動を行います。
- 市民の皆さんがトレイやペットボトル、びんなどを持ち込める回収拠点としての役割も果たします。
- 製造・販売した製品から発生したごみは、原則として市民の皆さんから引き取ってリユース（再使用）、リサイクルしなければなりません。

